



## 平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年11月14日

上場会社名 株式会社エムアップ 上場取引所 東  
 コード番号 3661 URL http://www.m-up.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美藤宏一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務経理部長 (氏名) 藤池 季樹 TEL 03-5467-7125  
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	1,760	—	279	—	281	—	153	—
26年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 122百万円 (—%) 26年3月期第2四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	22.02	20.79
26年3月期第2四半期	—	—

(注) 第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載していません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	2,387	1,564	64.7	221.11
26年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 1,544百万円 26年3月期 一百万円

(注) 第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期の数値については記載していません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	18.00	18.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	13.00	13.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,142	△11.2	450	△3.7	450	5.6	270	1.3	40.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、増減率については記載していません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	6,984,800株	26年3月期	6,967,200株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	86株	26年3月期	86株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	6,973,803株	26年3月期2Q	6,735,455株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、企業収益や雇用及び所得環境の改善に伴い、緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、消費税増税に伴う反動の長期化懸念から、一部に足踏みや弱さが見られ、加えて海外経済の下振れや地政学的リスクなど景気を下押しする要因も依然として残るなど、先行きはなお不透明な状況にあります。

当社を取り巻くインターネット関連市場につきましては、従来からの携帯電話端末やPC端末を通じたインターネット利用に加えて、スマートフォンやタブレット端末の利用が拡大し、また、高速モバイル通信の普及等に伴うインターネットの利用環境の整備が進むなど、今後も安定的な成長が期待されております。

携帯電話端末の契約数は、平成26年9月末現在で1億2,424万件（前年同期比4.6%増）、このうちスマートフォンの契約数が6,248万件（前年同期比24.6%増）となり、携帯電話端末全体に占める割合が50.3%と過半数を超え、利用者を増加させております（出所：株式会社MM総研）。

モバイルコンテンツの市場規模は、平成25年には全体で1兆783億円（前年同期比26.7%増）となり、拡大のペースを加速させております。中でも、スマートフォン向けコンテンツ市場は、その普及と利用者の増加に伴い、8,336億円（前年同期比124.3%増）と前年の2倍を超える市場規模へと急成長しており、モバイルコンテンツ配信市場におけるスマートフォンの位置付けはより重要性を高め、市場は活性化しております（出所：一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム）。

eコマース市場においても、モバイルコンテンツ市場と同様に、スマートフォンが牽引役となり市場は拡大しております。平成25年のモバイルコマース市場は、1兆9,359億円（前年同期比29.1%増）と、PCに近い表現力を持ち、時間や場所を選ばずに利用できるスマートフォンの特性によって、利用者数や利用機会と比例して、順調な拡大を続けております（出所：一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム）。

このような外部環境の中、当社は、アーティストやタレント、キャラクターまでの様々なコンテンツを幅広く取り扱い、それらをファンクラブサイトやしゃべってキャラ、音楽、電子書籍といった多岐にわたるデジタルコンテンツ配信から、音楽映像商品やグッズ、アパレル商品を取り扱うeコマースに至るまで、複合的に展開することにより、サイトや事業間でのシナジー効果を発揮させ、収益の拡大と多様化に努めてまいりました。

事業の基盤となる有料会員につきましては、流行が予想されるコンテンツのいち早い発掘と獲得、新規サイトの開設に引き続き注力し、会員数の増加を図ってまいりました。スマートフォンへ向けた取り組みといたしましては、スマートフォン向けの新規コンテンツサービスを今後の当社の重要な月額会員制サイトと位置づけ、キャラクターを中心としたコンテンツを積極的に投入し、有料会員数の獲得を進めてまいりました。

加えて、11月に開催のゆるキャラグランプリへ向けて、株式会社ゆるキャラを通じたゆるキャラを題材とするコンテンツの制作と配信も展開してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,760百万円、営業利益は279百万円、経常利益は281百万円、四半期純利益は153百万円となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

①携帯コンテンツ配信事業

携帯コンテンツ配信事業につきましては、アーティストやタレントの新規ファンクラブサイトの開設に、引き続き取り組んでまいりました。加えて、アニメやキャラクターの積極的な獲得とコンテンツ制作を行い、しゃべってコンシェルなどスマートフォン向けコンテンツサービスを中心に配信することで、事業の基盤となる有料会員の獲得も進めてまいりました。

また、キャリアの提供するスマートフォン向け月額使い放題サービスである、「スゴ得コンテンツ」や「スマートパス」において、既存サービスへは人気キャラクターのコンテンツの投入を継続するとともに、新たにゆるキャラグランプリを題材とした「ゆるキャラグランプリ for スゴ得」及び「ゆるキャラグランプリ for au」をそれぞれ提供開始し、利用者ランキングの上位を獲得、新たな収益機会を確保することができました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における携帯コンテンツ配信事業の売上高は1,497百万円、セグメント利益は393百万円となりました。

②PCコンテンツ配信事業

PCコンテンツ配信事業につきましては、アーティスト及びタレント等の有料ファンクラブサイトにおいて、パッケージ商品やコンサートチケットの先行販売などを実施し、会員の維持、拡大を推進してまいりました。また、アーティストやスポーツ選手のオフィシャルサイトの受託制作など、他の事業セグメントも含め、将来の新たな収益の獲得と拡大に繋がることを見据えた事業展開を行ってまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるPCコンテンツ配信事業の売上高は109百万円、セグメント利益は9百万円となりました。

③eコマース事業

eコマース事業につきましては、CD、DVD及びブルーレイといった音楽映像商品と関連するアーティストグッズを事業の中核に据え、当社がファンクラブサイトを運営するアーティスト等の商品の直販と、大手レコード会社との提携によるレコード会社の公式販売サイトの運営管理の両面から、事業を展開してまいりました。サイト限定やオリジナル商品の取り扱い、購入特典の付与、コンサートチケットの予約抽選といった施策によって、その利用促進を図ってまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるeコマース事業の売上高は142百万円、セグメント利益は35百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は1,495百万円となりました。主な内訳は、現金及び預金396百万円、売掛金640百万円、商品187百万円であります。

固定資産は891百万円となりました。主な内訳は、のれん66百万円、投資有価証券352百万円であります。

この結果、総資産は2,387百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は797百万円となりました。主な内訳は、買掛金452百万円であります。

固定負債は24百万円となりました。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は1,564百万円となりました。主な内訳は、資本金209百万円、資本剰余金236百万円、利益剰余金1,238百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後における我が国の経済は、緩やかな景気の回復が続くと期待される一方で、足元では消費増税の反動の長期化により一部に弱さが残り、また海外景気の下振れ、地政学的リスクも懸念されるなど、先行きはなお不透明な状況にあります。

一方で、当社の属するインターネット関連市場につきましては、スマートフォンの普及が一巡し、それに伴ってコンテンツサービスもフィーチャーフォン向けからスマートフォン向けへと軸足が移行するなど、市場は大きな転換点にあり、モバイルビジネスを取り巻く環境は大きく変化することが見込まれております。

こうした事業環境の中、当社は技術及び市場動向の影響を受けにくい、ファンクラブサイトを中心とした公式サイトの開設と、それに伴う新規有料会員の獲得を推進しております。また、当社は、運営するフィーチャーフォン向け公式サイトのスマートフォンへの対応を完了させており、会員の移行が進んでおります。しかしながら、スマートフォン向けコンテンツ市場はいまだ黎明期にあり、技術革新やサービスの流行と陳腐化の流れは早く、それらを的確に予測することは困難であります。加えて、フィーチャーフォン向けコンテンツ市場については、規模の縮小が継続しており、同業他社においても会員数は減少傾向にあります。当社といたしましては、これまで以上に迅速な事業展開を進めていく方針であります。携帯コンテンツ配信事業の業績予想は、スマートフォンの影響を最大限に加味し、保守的なものとしております。また、ファンクラブサイトにつきましては、その開設時期はアーティストや事務所等の意向も反映され決定されます。そのため、予算策定時点において開設時期が決定していないファンクラブサイトについては業績予想へは織り込まないこととしております。

eコマース事業におけるCD/DVD等パッケージ商品の販売につきましても、その発売時期は、アーティストの活動状況により変動いたします。発売が未定である下期以降の新譜につきましても、同様に業績予想へは織り込まないこととしております。新規ファンクラブサイト、及び商品のリリースが決定し次第、業績予想は見直していく方針です。

費用面では、販売に比例し増減するロイヤリティ等や、採用の強化に伴う人材関連費用の増加を見込んでおります。

以上により、平成27年3月期の業績予想については、売上高3,142百万円、営業利益450百万円、経常利益450百万円、当期純利益270百万円を見込んでおります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、第1四半期連結累計期間において、株式会社ゆるキャラの株式の60%を取得し、同社を子会社としたため、連結の範囲に含めております

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)	
<b>資産の部</b>	
流動資産	
現金及び預金	396,867
売掛金	640,344
商品	187,462
繰延税金資産	64,081
その他	252,951
貸倒引当金	△46,222
流動資産合計	1,495,483
固定資産	
有形固定資産	
有形固定資産	137,294
有形固定資産合計	137,294
無形固定資産	
のれん	66,245
その他	25,652
無形固定資産合計	91,898
投資その他の資産	
投資有価証券	352,273
繰延税金資産	86,680
長期貸付金	39,297
その他	222,965
貸倒引当金	△38,697
投資その他の資産合計	662,519
固定資産合計	891,713
資産合計	2,387,196
<b>負債の部</b>	
流動負債	
買掛金	452,612
未払法人税等	119,746
賞与引当金	24,012
役員賞与引当金	15,000
その他	186,054
流動負債合計	797,425
固定負債	
資産除去債務	11,927
その他	13,018
固定負債合計	24,946
負債合計	822,372
<b>純資産の部</b>	
株主資本	
資本金	209,852
資本剰余金	236,119
利益剰余金	1,238,560
自己株式	△48
株主資本合計	1,684,484
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△140,123
その他の包括利益累計額合計	△140,123
新株予約権	18,753
少数株主持分	1,710
純資産合計	1,564,824
負債純資産合計	2,387,196

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	1,760,846
売上原価	1,094,586
売上総利益	666,259
販売費及び一般管理費	387,205
営業利益	279,053
営業外収益	
受取利息	74
貸倒引当金戻入額	1,473
雑収入	925
営業外収益合計	2,473
営業外費用	
支払利息	22
営業外費用合計	22
経常利益	281,504
税金等調整前四半期純利益	281,504
法人税、住民税及び事業税	134,237
法人税等調整額	△4,860
法人税等合計	129,376
少数株主損益調整前四半期純利益	152,128
少数株主損失(△)	△1,428
四半期純利益	153,556



(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	152,128
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△29,882
その他の包括利益合計	△29,882
四半期包括利益	122,245
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	123,673
少数株主に係る四半期包括利益	△1,428

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	281,504
減価償却費	15,211
のれん償却額	9,468
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,901
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,482
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△15,000
受取利息	△74
支払利息	22
売上債権の増減額 (△は増加)	3,941
たな卸資産の増減額 (△は増加)	32,553
仕入債務の増減額 (△は減少)	△456,130
その他	△37,509
小計	△169,395
利息の受取額	74
利息の支払額	△22
法人税等の支払額	△107,649
営業活動によるキャッシュ・フロー	△276,993
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
投資有価証券の取得による支出	△20,241
有形固定資産の取得による支出	△309
出資金の払込による支出	△50,360
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△8,977
その他	7,993
投資活動によるキャッシュ・フロー	△71,894
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
新株予約権の行使による株式の発行による収入	3,996
配当金の支払額	△135,050
財務活動によるキャッシュ・フロー	△131,054
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△479,941
現金及び現金同等物の期首残高	876,809
現金及び現金同等物の四半期末残高	396,867

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益 計算書計上 額 (注)3
	携帯 コンテンツ 配信事業	PC コンテンツ 配信事業	eコマース 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,497,013	109,646	142,959	1,749,619	11,226	1,760,846	—	1,760,846
セグメント間の 内部 売上高 又は振 替高	—	—	—	—	3,699	3,699	△3,699	—
計	1,497,013	109,646	142,959	1,749,619	14,926	1,764,545	△3,699	1,760,846
セグメン ト利益又 は損失 (△)	393,266	9,699	35,833	438,799	△9,308	429,491	△150,438	279,053

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゆるキャラ<sup>®</sup>関連の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△150,438千円は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。